ある中学校を訪問した時のことです。体育館で全校生徒に1時間くらい「働くこと・生活すること・生きること」についてのお話をした後、質問のコーナーがありました。すると、後ろの方にいた男子生徒が手を挙げました。

「なんで勉強って、しないといけないんですか。将来、役に立つことがあるんですか。勉強する意味がわからないから、する気がしない。」

私はこう答えました。

「学校の勉強で、社会に出てそのまま役に立つことなんて、ほとんどない。」

中学校で習う数学を、今、私が解けるかということ、解けない問題も多いでしょう。テレビで、中学や高校の入試問題などの解答を競う番組がありますが、芸能人がスラスラ正解するのを見て、すごいなあと思います。私には無理です。

予想外の答えだったのか、質問した彼は、少し拍子抜けした様子でした。今度は私から、全校生徒に質問しました。

「彼は、勉強はやる気がしないって言ったけど、反対に、勉強は楽しいから好きだって人いる？」

だれも手を挙げません。

「自分も勉強なんて何でしないといけないかわからない。だから好きじゃないって人は？」

やはりだれも手をあげません。でも少し時間をおくと、何人かが手を挙げます。結局、私も私もと、かなり多くの生徒が手を挙げました。その様子を見て、私は言いました。

「それでいいと思うよ。勉強っていうのは、わからないことだらけだよ。でも、勉強っていうのは、わからないということに慣れる練習をしているんだよ。」

学校を卒業し、社会に出ると、毎日がわからないことだらけです。どんなふう to 仕事をすればよいのか。将来をどう生きていけばよいのか。悩みは尽きません。

だとすれば、よくわからない社会で毎日生きるために、一番大切なのは何か。それは「わからない」ということから、逃げないことです。

わからないということに慣れる練習をしているというのは、考えてみると、教室での勉強に限ったことではありません。部活だってそうです。バスケットボール部でシュートがうまくなりたい。どうすればもっと成功率を高くできるか、わからない。わからないから、コツコツ練習する。吹奏楽部だって、もっとうまく演奏できるようになりたいから、練習したり、先生や先輩、仲間のアドバイスを真剣に聞いたりする。学校での生活は、すべて、わからないことに慣れ、そこから逃げないための練習なのです。「トライやる・ウィーク」も、皆さんにとっては新しい世界への挑戦ですが、1週間の中でたくさん出会う「わからない」ことへの挑戦こそが、最も大切なことなのです。

そして、わからないことから逃げず、あきらめずにウロウロしているうちに、「こんなことをしたい」「あんなふうになりたい」という希望にも、出会うことができるのです。